

たんぽぽ

八代市教育サポートセンター
子ども支援相談室だより
令和7年 7月号
文責 古杉 敬子

子供の気持ちを大切に！

昨年、相談があった内容に再登校事例となる内容がありましたので、みなさまにも紹介したいと思います。



ちひろさん(仮名)は、今、中2です。
中1の5月の連休明け頃から、休みがちになりました。
そして、11月頃から全く学校に行けなくなってしまいました。
ところが、ちひろさんは、中2の始業式から、再び登校を始めました。



約10カ月間、不登校だったちひろさんが登校できるようになるまで、ちひろさんと保護者さまとの間には、一体どのようなかかわりがあったのでしょうか。
振り返ってみます。

ちひろさんの保護者さまが、相談に来られたのは5月の下旬頃でした。
ちひろさんが、欠席がちになるまでの様子を振り返りながら、これからどのようなかかわりが大切になっていくか話し合いました。
そして、次の3つになりました。

- 1 子供を責めるようなことは言わない。⇒子供を否定しない
- 2 子供の話(気持ち)をしっかり聴く。⇒子供に共感する
- 3 家庭(家族)で楽しい時間、リラックスできる時間を持つ。⇒

子供が家庭は安心、安全な場所だと感じ取る

この3つのことをみなさまは、どう思われたでしょうか。

一見、特別なことではないように思われるかもしれませんが、実は、どれも重要なかかわりになっています。

1『子供を責めるようなことは言わない』については、ついつい「何で学校に行かないの」と言ってしまうがちです。そのような時は、「学校に行くのがつらいんだね。何か話せること、あるかな?」と試してみたらどうでしょうか。責めるのではなく子供の気持ちに寄り添う姿勢をみせることが大切です。話せるようでしたら、どんなことでも受け止めるような姿勢を見せます。

そして、2『子供の話(気持ち)をしっかり聴く』についてです。

子供のことを分かってもらうには、子供の気持ちと大人の気持ちを言葉で話して伝え合うのです。

子供の気持ちを聴くことはとても大切です。大人は、案外思い込みがあったりします。または、決めつけてしまうところがあります。

子供の話を聴くと“そういう考えだったのね”“そんな気持ちだったのね”などと改めて子供の気持ちがわかります。

そして、“そのような思いをしていたなんて、気づかなくてごめんね”などと子供の気持ちへ返す言葉が見つかります。

すると、子供は自分のことをわかってもらえた嬉しさと安心感でいっぱいになります。

ちひろさんの保護者さまは、このようにちひろさんの気持ちを聴くことを重ねながら理解していかれたのだと思います。

最後に保護者さまが言われた言葉がとても印象に残っています。

紹介します。

『いつも面談のときに“いい意味で切り替える”ということを知っていました。どうしたらよいか、はっきり分かりませんでした。』

『ただ、自分の凝り固まった思考を切り替えたことで、気持ちが楽になりました。そうしたら、子供の状態が気にならなくなりました』

最近話したお母さまの言葉から…

『まだ波にゆられながらですが、確実に強くなっていると思います。私も向き合っていっしょに成長できたらと思います』



*本事例をたよりに掲載することについては、保護者さまに了解を頂いています。



不登校の状態を“当たり前のことできない”と捉えて親が悲観的になり自分の子育てを責めたり、子供さんを叱ったりすると親子関係に不信感がうまれてしまい、子供は、益々不安が強くなり気持は学校に向かなくなってしまう。

不登校は、特定の子供に特有の問題があることによって起こることではなく、「誰にでも起こりうる」と既に平成4年に文科省も不登校の捉え方を変えています。

今は、自分のペースで力を蓄える大切な期間だと捉え、子供と同じ目線に立ち、子供を信じて、前向きにできることから一つずつ始めてみましょう。

子供の気持ちを理解することが、不登校を解決するための第一歩です。

そうだな あんない 相談のご案内～子育て(不登校)などの悩み相談～

●相談方法

・電話 0965-33-6145(相談室専用)

・メール kodomo-sien@yatsushiro.jp
(または、右の QR コードから)

・来所面談 やつしろ子ども支援相談室

(八代市役所4階 教育サポートセンター内)

八代市松江城町 1-25

●相談時間 月～金曜日 午前9時～午後2時



八代市
こくわん
相談室
©2015 8islands



八代市
こくわん
相談室
©2015 8islands